

2024年3月27日(水)

「水曜サロン with 赤堀会長」第5期 第11回(通算71回)

メタバースとクリエイティブAIが拓く「おもしろい体験の研究開発」

1. 内容

- ・さわってみてほしい「画像生成AI」
- ・「おもしろい」教育と研究の歴史
- ・メタバースとクリエイティブワークショップの開発
- ・障害者とクリエイティブワークショップ
- ・生成AIと倫理「人間は楽しいことをしたい、若者は？」
- ・まとめ「つくる人をつくる」

2. 所感

この分野は、進化が早い世界。AIは先生にとって非常に高いハードルになっている。障害者は多種多様で、どのように個人へ寄り添っていけばよいか、ヒントをいただきたい。今日は、事前質問に対して、お話の中で、それらに答えるような展開でもありました。

まず本日の資料の表紙のイラストレーションの紹介がありました。この水曜サロンの開始30分前にタクシーの中で「生成」したもの。次は、生成AIだけで作った動画……。続いて、95%がAIで、ニュースをピックアップしたり、翻訳したりしているSNSアカウントの紹介。しかしながら、AIが人々の仕事を奪う、自動化の話ではなく、人々の表現のため、新しい関係を作っていくためのAIである、この後のお話で、しっかり実感することができました。

価値を作り出していく方法こそが価値、つくる人を作る おもしろいと思うことが大切。相当な技術力が必要で難しいと思う反面、生成AIを通じて、難しいことが容易にできるだろうことも想像しました。

遊びの検証はおもしろい。目的や利益が設定されると遊びではなくなる。平成～令和にかけて、遊びが破壊されている。

重い障害を持つ子供が、漫画を描いている、難病を持つ子が旅行できる。これらは、本人の表現、自由、体験にとどまらないという話もいただきました。例えばですが、なぜここに電信柱があるのだろうか？という健常者とは着眼点が異なっているわけで、それを漫画等で表現できるようになると、周りの人の考え方が変わってくる。そして、我々もいつまで健常者でいられるかわからないわけであり、その表現と受け止めで社会に繋がっていく、社会が変わっていくことになる。

最後に教育という点での提言をいただきました。子どもたちのクリエイティビティで変わっていけば、それは私たちの学びであり、クリエイティビティで世の中が変わっていくと。深いですが、大人が、子どものクリエイティブを邪魔してはいけない、子どもたちのクリエイティブから学びましょう、世界を変えていきましょう、そんなメッセージだったのではないかと感じました。

白井さん、今日は、メタバースというデジタルの世界の話が閉じられた世界だけの話ではなく、リアルな現実社会を、よりよく変えていけることを想像できるお話をいただきまして、誠にありがとうございました。

以上